

地元高校生と技磨く



ローイング・埼玉の実業団

米子で合宿

地元高校生(左から2人目、同3人目)と練習する選手ら。米子市の中海(戸田中央総合病院・島拓也さん撮影)

合宿には、選手ら計10人が参加。長距離をこぐ「遠漕」のほか、レースを想定したスピード練習に取り組んだ。さらに鳥取大医学部付属病院(米子市西町)では、高濃度の酸素を吸入して疲労回復を促す「高気圧酸素治療」も受けた。

28日は、夏季合宿では初めて地元高校生と一緒に艇に乗って練習をした。米子南高3年の藤田結衣は「実践的なオール技術の技術を教わった」「石倉莉子は「一つつつの練習にこだわっている意識の違いを感じた」と目を輝かせた。

選手兼監督の小林雅人は、中海周辺の風景や宿舍の食事が選手のリフレッシュにつながったと振り返り、「モチベーション高く合宿に臨むことができた」充実感をにじませ、今後の大会での活躍を誓った。(足立篤史)

同クラブは全日本選手権で優勝経験のある強豪で、今年の国民スポーツ大会にも複数の選手が出場する。2023年から毎年夏に合宿を行っており、同市では初めてとなる。

メンバーに同市出身で日本ローイング協会指定コックスの来海泰志が在籍していることや、錦海ボートコースへのアクセスの良さが合宿地決定の決め手となった。

ローイング実業団の戸田中央総合病院クラブ(埼玉県)が8月21日、米子市の県立米子艇庫を拠点に夏季合宿を行った。9月から本格化するシーズンへの強化とともに、地元高校生と一緒に練習するなど後進の競技力向上にも努めた。